

法人名 南レク株式会社

所管部(局)課 土木部 都市整備課

1 法人の概要

令和 7 年 3 月 31 日 現在

代表者名	代表取締役 片岡正雄	ホームページURL	https://www.nanreku.jp/
所在地	愛媛県宇和島市津島町近家甲1813	電話番号	(0895)32-3344
基本金・資本金等	400,000 千円 (H19.8.7 1,500,000千円から無償減資)	設立年月日 (移行年月日)	昭和48 年 6 月 14 日 (平成 年 月 日)
主な出資者	出資者名		出資額(千円) ※括弧内の金額は減資後資本金相当額
	愛媛県		401,000(106,933)
	四国電力株式会社		282,500(75,333)
	宇和島市		232,500(62,000)
	愛南町		192,500(51,333)
	四電ビジネス株式会社		142,500(38,000)
設立目的	地域との連携を図りながら、南予レクリエーション都市公園施設を適正に管理し、利用を促進することにより、南予レクリエーション都市公園とその周辺地域の活性化を図ることを目的とする。		
設立の経緯 及び経過	-		
主な事業内容	①公園施設の管理業務の受託 ②都市公園内のサービス施設の運営 ③施設の経営、賃貸借及び維持管理 ④旅行業法に基づく旅行業 ⑤損害保険代理業 ⑥地域の活性化に資する事業及び業務の受託 ⑦地方公共団体等からの受託事業 ⑧その他、前各号に掲げる事業に関連して必要とされる事業		管理受託施設 (指定管理者施設を含む) 南予レクリエーション都市公園 第5号南予レクリエーション都市公園

2 組織の状況

(単位:人)

区分	令和3年度					令和4年度					令和5年度					令和6年度					増減	左記の増減理由
	合計	うちプロパー	うち県職員(派遣)	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員(派遣)	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員(派遣)	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員(派遣)	うち県職員(兼務)	うち県職員OB		
役員	12	1	0	0	1	12	1	0	0	1	12	1	0	0	1	12	1	0	0	1	0	
常勤	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	0	
非常勤	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	
職員	60	60	0	0	0	59	59	0	0	0	60	60	0	0	0	62	62	0	0	0	2	
正規職員	28	28	0	0	0	26	26	0	0	0	26	26	0	0	0	27	27	0	0	0	1	正規職員及び非正規職員の雇用
非正規職員	32	32				33	33			0	34	34			0	35	35			0	1	
常勤職員	32	32				33	33			0	34	34			0	35	35			0	1	
非常勤職員	0	0				0	0			0	0	0			0	0	0			0	0	
県関係職員の実数			0	0	1			0	0	1			0	0	1			0	0	1		
県退職後2年内雇用OB					1					1												
役員・職員の兼務等特記事項																						

※役員・職員の兼務等特記事項については、プロパー、県職員の別を明記してください。

法人名 南レク株式会社

3 実施事業評価表

(単位:千円、%)

事業名1		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
都市公園管理		売上高(事業収益)	350,456	354,363	361,795	371,326	394,668	6.3	
		全体事業に占める割合(%)	87.02	86.17	80.69	80.30	79.73		
事業 開始年度	S51	売上原価(事業費)	350,007	354,117	361,919	371,261	394,388	6.2	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	88.81	88.75	83.86	83.57	84.57		
成果指標		指標項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		南楽園入園者(人)	47,187	35,013	61,977	58,610	54,846	△6.4	
		御荘プール利用者(人)	9,890	13,894	27,788	42,775	42,872	0.2	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		南予レクリエーション都市公園の管理運営							

(単位:千円、%)

事業名2		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
南レク観光業務		売上高(事業収益)	4,291	4,722	12,820	8,703	6,626	△23.9	出張や団体手配の減少
		全体事業に占める割合(%)	1.07	1.15	2.86	1.88	1.34		
事業 開始年度	H20	売上原価(事業費)	4,472	4,649	12,067	8,180	6,202	△24.2	売上高減少に伴う、商品仕入の減少
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	1.13	1.17	2.80	1.84	1.33		
成果指標		指標項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		自社企画収入(千円)	106	697	4,340	2,411	3,404	41.2	団体利用申込の増加
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		南レク公園及び南予地域への交流人口拡大を見込んだ着地型旅行業							

(単位:千円、%)

事業名3		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
不動産事業(ロッジ 賃貸)業務		売上高(事業収益)	5,692	6,830	55	0	255	-	
		全体事業に占める割合(%)	1.41	1.66	0.01	0.00	0.05		
事業 開始年度	S54	売上原価(事業費)	5,368	5,152	5,825	6,283	2,701	△57.0	サンパール観光清算に伴う、固定資産税等の減少
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	1.36	1.29	1.35	1.41	0.58		
成果指標		指標項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		利用者数(人)	282	179	0	0	0	-	使用中止により
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		南予レクリエーション都市公園への集客を見込んだ宿泊施設の賃貸経営(R4年4月から使用を中止し土地を取得)							

(単位:千円、%)

事業名4		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
5号公園管理受託		売上高(事業収益)	2,779	2,691	2,781	2,837	2,840	0.1	
		全体事業に占める割合(%)	0.69	0.65	0.62	0.61	0.57		
事業 開始年度	H21	売上原価(事業費)	2,788	2,660	2,845	2,843	2,852	0.3	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	0.71	0.67	0.66	0.64	0.61		
成果指標		指標項目(単位)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		年間公園利用者(人)	30,182	26,996	38,174	48,602	56,738	16.7	各種地域イベント受入による、公園利用者増加
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		第5号公園南レク公園の公園運営管理を愛南町より受託							

法人名

南レク株式会社

4 財務状況

(単位:千円、%)

区 分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (個々の項目で前年度10%前後の増減及び 当該年度特有の事情による増減があった場合に記入)
【損益計算書】	売上高又は営業収益	402,750	411,229	448,359	462,420	495,033	7.1	
	売上原価	394,114	399,019	431,599	444,231	466,317	5.0	
	売上総利益	8,636	12,210	16,761	18,188	28,716	57.9	その他受託事業収入や紫電改売店収入の増収
	販売費及び一般管理費	1,834	1,879	2,222	2,405	2,900	20.6	販売費及び一般管理費の増加
	営業利益	6,802	10,331	14,539	15,783	25,816	63.6	売上総利益増加により営業利益も増加
	営業外収益	11,896	9,346	3,134	1,467	953	△35.0	営業外雑収入の減少
	営業外費用	1	1	2	4,696	1	△100.0	雑損失の減少
	経常利益	18,697	19,675	17,671	12,555	26,768	113.2	営業利益増加により経常利益も増加
	特別利益	45	2	168	11,092	0	△100.0	固定資産売却益等の減少
	特別損失	200	116	273,585	60	446	643.3	固定資産除却損の増加
	税引前当期純利益	18,542	19,561	-255,746	23,586	26,322	11.6	経常利益増加により税引前当期純利益利益も増加
	法人税等及び法人税調整額等	11,143	13,005	20,387	5,151	11,716	127.5	法人住民税及び事業税額の増加
	当期純利益	7,399	6,556	-276,133	18,435	14,605	△20.8	法人税等及び法人税調整額等の増加により当期純利益の減少
【貸借対照表】	資産	696,985	701,058	400,202	401,838	434,939	8.2	
	流動資産	384,911	404,369	273,729	273,881	310,867	13.5	定期預金や商品の増加
	うち現金預金	351,721	364,446	247,183	253,192	289,933	14.5	定期預金の増加
	固定資産	312,074	296,689	126,473	127,957	124,072	△3.0	
	負債	174,387	171,904	147,181	130,382	148,878	14.2	流動負債の増加
	流動負債	47,707	57,332	54,468	45,139	58,582	29.8	買掛金や未払法人税等の増加
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	-	
	固定負債	126,680	114,573	92,713	85,243	90,296	5.9	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	-	
	純資産	522,598	529,154	253,021	271,456	286,061	5.4	
	資本金	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	0.0	
	利益剰余金等	122,598	129,154	-146,979	-128,544	-113,939	11.4	繰越利益剰余金の増加
	負債及び純資産合計	696,985	701,058	400,202	401,838	434,939	8.2	

【人件費内訳】

(単位:千円、%)

区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
役員人件費		4,575	4,010	7,210	8,380	8,982	7.2	
職員人件費	うち事業費分	188,200	190,647	190,884	187,568	201,145	7.2	
	うち管理費分						-	
	小 計	188,200	190,647	190,884	187,568	201,145	7.2	
合 計		192,775	194,657	198,094	195,948	210,127	7.2	

【県の財政的関与】

(単位: 千円、%)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
負 担 金	0					-	
補 助 金	0					-	
委 託 料	331,018	333,164	327,465	333,005	357,502	7.4	
うち指定管理委託料	321,524	321,429	322,029	333,005	357,502	7.4	
うち再委託額	78,340	77,645	77,998	78,630	85,872	9.2	
貸 付 額	0					-	
県 支 出 金 計	331,018	333,164	327,465	333,005	357,502	7.4	
貸付残高(期末)	0					-	
損失補償に係る債務負担残高(期末)	0					-	

【県の財政的関与の内訳】(R6年度)

(単位: 千円)

区分	名称	金額	左記の内容
負担金			
補助金			
委託料	南予レクリエーション都市公園管理業務	357,502	南予レクリエーション都市公園の管理運営
	南予レクリエーション都市公園管理業務	9,012	運行管理業務委託
	宇宙フェス企画2024企画運営業務	870	宇宙フェス事業
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】

(単位: %)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	79.8	79.2	72.5	71.8	72.1	0.3	県からの補助金等(補助金・負担金・委託金)÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	23.7	23.3	23.8	23.6	24.0	0.4	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	48.7	48.6	45.7	42.0	44.8	2.8	人件費÷(売上原価+販売費及び一般管理費)×100
正味財産比率又は自己資本比率	75.0	75.5	63.2	67.6	65.8	△1.8	純資産÷(負債+純資産)×100
流動比率	806.8	705.3	502.6	606.8	530.7	△76.1	(流動資産÷流動負債)×100
借入金依存率	-	-	-	-	-	-	(長期借入金+短期借入金)÷資産×100

法人名 南レク株式会社

5 役員会等の開催状況

(1) 令和6年度開催の役員会(理事会又は取締役会)の開催状況及び各役員(理事・監事又は取締役・監査役)の出席状況

		常勤 非常勤	社内 社外	開催日	R6.5.22	R6.6.20	R6.10.8	R6.12.4	R6.12.25	R7.3.24	出席率 (代理出席 含む)	備考
				開催方式	対面	対面	対面	書面	対面	対面		
役員	取締役A	常勤	社内	出席状況	○	○	○	○	○	○	100%	
	取締役B	常勤	社内		○	○	○	○	○	○	100%	
	取締役C	非常勤	社外		○	○	○	○	×	○	83%	
	取締役D	非常勤	社外		×	×	×	○	○	×	33%	
	取締役E	非常勤	社外		○	×	○	—			66%	
	取締役F	非常勤	社外		○	○	○	○	○	○	100%	
	取締役G	非常勤	社外		×	○	×	○	○	×	50%	
	取締役H	非常勤	社外		×	○	×	○	○	○	66%	
	取締役I	非常勤	社外		×	×	×	○	×	×	16%	
	取締役J	非常勤	社外		×	○	○	○	○	○	83%	
	取締役K	非常勤	社外		○	○	○	○	○	○	100%	
	取締役L	非常勤	社外						○	×	50%	
	監査役	非常勤	社外		○	○	○	○	○	○	100%	

【出席:○、代理出席:△、欠席:×、その他(年度途中の就退任等):-】

(2) 法人が各取締役、監査役、理事、監事に期待するスキル

		常勤 非常勤	社内 社外	経営、戦略	人事 人材育成	営業	技術	財務、会計 (財産の管理 運用)	法務	ガバナンス 内部統制	その他 ()
役員	取締役A	常勤	社内	○						○	
	取締役B	常勤	社内	○	○	○				○	
	取締役C	非常勤	社外	○						○	
	取締役D	非常勤	社外	○						○	
	取締役E	非常勤	社外	○						○	
	取締役F	非常勤	社外	○						○	
	取締役G	非常勤	社外	○						○	
	取締役H	非常勤	社外	○						○	
	取締役I	非常勤	社外	○						○	
	取締役J	非常勤	社外	○						○	
	取締役K	非常勤	社外	○						○	
	取締役L	非常勤	社外	○						○	
	監査役	非常勤	社外					○		○	
○のない理由 (当該スキルを役員に期待しない理由) 例 ・法人の事業内容と関係のないスキルであるため。 ・別に外部の専門家から助言や支援を受けているため。							・法人の事業内容と関係のないスキルであるため。		・弁護士と顧問契約を行い、助言や支援を受けている。		

法人名 南レク株式会社

6 法人の現状及び過去の評価結果

法人の現状	<p>○津島やすらぎの里指定管理業務終了に伴い、大幅な人員削減や、経費の効率化を図ったこと。また、利用者獲得に向けたメリハリのある投資を実行したことにより、8期連続した黒字計上が達成でき、経営基盤の強化を図ることが出来たと思われる。</p> <p>○今後も利用者獲得に向け、愛媛県と民間企業との「連携と協力による包括協定」を活用したPRの継続実施や、HPやSNSを活用したメディアへの露出度拡大、全国の旅行会社へ南レク公園及び四国西南地域を含めた観光施設を一体化した営業活動の強化及び着地型旅行商品の充実を図り、愛媛県南予地域の交流人口の拡大を図り地域活性化に寄与できる取組を展開してまいりたい。</p>
県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果 (平成22年度総評)	<p>○南レク都市公園の利用者が減少傾向にある中、改革期間中、組織再編、大幅な人員合理化、業務の見直しによる経費節減等により4年連続で経常利益からの黒字を確保したことは評価できる。</p> <p>○新たに開始した観光業や地元市の指定管理者施設の運営などを通じて、一体的な利用促進に向けた取組を一層進め、南レク都市公園の利用促進はもとより、南予地域の経済活性化に資するよう積極的な経営展開を図っていただきたい。そのために、新鮮な魚介類や風光明媚な景観など自然の恵みが豊かな南予地方の特長を活かし、若い人々のアイディアや感覚を積極的に取り入れながら、斬新な集客策に思い切って挑戦していただきたい。</p> <p>○減資により公認会計士による監査が行われなくなったが、子会社を有していることから、監査の精度を落とすことなく、適切な会計処理、資産の適正な評価には十分留意していただきたい。</p>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成23～25年度事業総括)	<p>○評価期間を通じて、業務の効率化や自主事業の強化を図るための組織体制の見直しを実施するとともに、事業の見直しに伴う大幅な人員削減、経費の効率的執行等を実施したことにより、4期連続して黒字を確保したことは評価できる。</p> <p>○平成19年の減資以降、公認会計士による監査が行われなくなったが、当法人は子会社を有していることから、その経営状況にも留意するとともに、適切な会計処理、資産の適正な評価に努めていただきたい。</p> <p>○今後は、県が実施を検討している南予地域の観光イベントや、えひめ国体との連携を図り、施設のPRや利用拡大に取り組み、交流人口の拡大や地域の活性化に貢献していただきたい。</p>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成26～29年度事業総括)	<p>○県が実施を検討している南予地域の観光イベントや、えひめ国体との連携を図り、施設のPRや利用拡大に取り組み、交流人口の拡大や地域の活性化の貢献に努めること。</p> <p>○28年度決算においては、公園利用者数の減少などにより、売上高が減少したが、経常利益はおおむね昨年度並みの額を確保するとともに、当期純利益も確保できたことは評価できる。</p> <p>○四国ルート観光協議会・共通券の販売など他団体との連携を継続することに加え、自主企画事業の充実強化、「和」を意識した取組み、外国人観光客の受入れ等による魅力向上を図るとともに、積極的な営業活動による利用者の増加を図り、自主財源の確保に努めること。</p>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果 (平成30～令和3年度事業総括)	<p>○子会社のサンパール観光株式会社の破産について、当委員会が、これまでも同社に係る適切な会計処理と資産の適正な評価に留意するよう要請してきたことを踏まえ、当該破産の影響を正確に検証したうえで、会計処理へ適切に反映すること。また、県民への説明責任の観点からも、引き続き、経緯及び跡地利用等の今後の見通しについて事業報告書や経営評価検証シートに記載するなど、丁寧な説明に努めること。</p> <p>○利用者の利便性・サービスの向上に当たっては、SNSを活用した情報発信等、若者に訴求する手法の推進も重要な課題であり、若手職員の新規採用に計画的に取り組んでいることは評価できるが、更なるサービスの向上のためには女性の感性を取り入れることも重要であることから、女性職員の増加についても、今後、計画的に検討を進めること。</p>

7 令和5年度から令和8年度における2次評価内容

<p>令和5年度評価 (令和4年度実績)</p>	<p>①4年度の財務状況は、当期純利益が、3年度の+6,556千円から-276,133千円に赤字転換し、利益剰余金等は3年度と比べて276,133千円減少した。これは、子会社であるサンパール観光の破産による子会社株式評価損や、債務保証損失等が計上されたことなどによるものである。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながら、新規のアウトドアイベントの実施等に取り組んだ結果、利用者数、利用料金収入ともに前年度から増加した点は評価できる。引き続き、地域と連携したイベントの開催や受入れ等により、集客増加と収益拡大に努めること。</p> <p>③過去の減資に伴い会計監査人監査を外したことにより、結果として法人の経営や資産・債務の状況が見えにくくなっていることから、法人の運営状況を県民に正確に伝えるためにも、事業報告書や経営評価検証シートにおいて丁寧な説明を行うとともに、積極的に情報を公開すること。</p> <p>④新聞広告などの既存のメディアによる広告に加え、SNSを活用した情報発信に積極的に取り組んでおり、引き続き、効果的な情報発信によりアクセス数の向上を図り、事業活動の認知度向上に努めること。</p>
<p>令和6年度評価 (令和5年度実績)</p>	<p>①5年度の財務状況は、当期純利益が4年度の-276,133千円から+18,435千円に黒字転換し、利益剰余金等は4年度と比べて18,435千円増加した。これは、4年度は子会社であるサンパール観光の破産による特別損失を計上したが、5年度はなかったことなどによるものである。</p> <p>②アウトドアイベントを中心とした集客効果の高いイベントを積極的に実施し、誘客活動に注力するとともに、近隣の観光施設と連携した取り組みを実施することで収益の増加に努めたことは評価できる。旅行需要が高まっているため、引き続き効果的な営業活動や事業の実施を図り、利用促進と収益拡大に努めること。</p> <p>③新聞広告やSNSを活用した情報発信に積極的に取り組んでおり、引き続き、効果的なプロモーションを展開し、誘客促進に努めること。また、ホテルサンパール跡地について、関係機関と連携し、有効活用策の検討を進め、安定した経営基盤づくりに取り組むこと。</p>
<p>令和7年度評価 (令和6年度実績)</p>	
<p>令和8年度評価 (令和7年度実績)</p>	

8 令和6年度2次評価における指摘事項等への対応や検討状況

・令和6年度は、春休み期間中の天候不順や夏休み期間中の猛暑、また4月と8月に大きな地震が2度も発生し、南海トラフ地震臨時情報の巨大地震注意が発表されるなど、各施設の管理運営に大きな影響を及ぼし利用者数、利用料金収入ともに前年度と比べ若干減少したが、紫電改展示館がリニューアルに向けての報道等により注目を集めていることや観月祭の利用者増による増収などもあり、当期純利益を計上することができた。また、令和6年度から、公認会計士の資格を持つ税理士との顧問契約を締結し、財務、会計処理及び経営状況や資産・債務の状況等の明瞭性に努めた。さらに、Webマーケティング支援サービスの契約を締結し、SNSを活用した情報発信にも積極的に努め、効率的な活用や、知識及び技能を深めた。なお、ホテルサンパール跡地については、およそ2/3を売却することができたが、残地についても、引き続き関係機関と連携を図りながら、利活用できるよう積極的に取り組んでまいりたい。

9 県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績(令和4～7年度実績)

(1) 出資法人の自主性・自立性の向上

○組織体制の見直し、役職員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		○正社員の定年退職後の再雇用制度の活用と新規正社員の雇用数の抑制
取組内容	共通	○再雇用制度の活用と新規正職員数の抑制 ○繁忙・閑散期における機動的な組織運用 ○能力に応じた人事への移行
	令和4年度	○正規職員3名補充。再雇用制度を活用した2名を再雇用。 ○定期昇給の抑制継続。
	令和5年度	○正規職員7名補充。再雇用制度を活用した3名を再雇用。 ○定期昇給の抑制継続。
	令和6年度	○正規職員2名雇用。再雇用制度を活用した1名を再雇用。 ○定期昇給の抑制継続。
	令和7年度	

○経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		○公園利用者増加による売上増収 ○子会社の経営状況の見極め
取組内容	共通	○公園利用者増加に向けたイベント等の施策 ○子会社経営状況の見極め
	令和4年度	○再雇用制度の活用によるノウハウの継承。 ○屋外施設を有効活用したアウトドアイベントの計画を継続。
	令和5年度	○再雇用制度の活用によるノウハウの継承。 ○子会社の破産手続き終了。損失の取り戻しに努める。
	令和6年度	○再雇用制度の活用によるノウハウの継承。 ○防災キャンプや運行管理業務など新たな事業の受託。
	令和7年度	

(2) 県の関与の適正化

○財政的関与の見直し

取り組むべき課題		○南レク公園資源を活用した、魅力ある自主イベントを開催し利用料金の増収を図ること
取組内容	共通	○交流人口の拡大を目指し、南レク公園利用料金等の収入増加を図る。
	令和4年度	○アフターコロナに即した屋外イベントを開催したことにより増収となった。
	令和5年度	○新設された「バレルサウナ」を活用したイベントやアウトドアイベントの充実により増収となった。
	令和6年度	○春休み期間中の天候不順や夏休み期間中の猛暑、また4月と8月に発生した大きな地震の影響により利用料金等の収入は減少した。
	令和7年度	

○人的関与の見直し

取り組むべき課題		○知識経験を有する県退職者の適任者の役員就任の継続とプロパー職員の育成
取組内容	共通	○必要最小限度の知識経験を有する県退職者の役員就任とプロパー職員の役員就任の体制継続
	令和4年度	○知識経験を有する県退職者1名が代表取締役、プロパー職員1名が取締役へ就任継続 プロパー職員の採用・育成に係る取組
	令和5年度	○知識経験を有する県退職者1名が代表取締役、プロパー職員1名が常務取締役へ就任継続 プロパー職員の採用・育成に係る取組 新規正社員の採用は継続しつつ、OJTによる社員育成を継続。
	令和6年度	○知識経験を有する県退職者1名が代表取締役、プロパー職員1名が常務取締役へ就任継続 プロパー職員の採用・育成に係る取組 新規正社員の採用は継続しつつ、OJTによる社員育成を継続。
	令和7年度	プロパー職員の採用・育成に係る取組

※プロパー職員育成計画等を作成している場合は添付してください。

○出資法人の活用

取り組むべき課題		○四国西南地域を含めた南レク公園の情報発信の継続
取組内容	共通	○各種協議会等へ加盟し南レク公園の情報発信 ○当社独自の大手旅行会社等へのセールス ○地域との連携したイベント開催や受入れ
	令和4年度	○屋外施設を活用したイベントを積極的に開催した。 ○近隣の観光施設と連携した共通券の販売や地域の郷土芸能やイベントの受入れ。
	令和5年度	○近隣の観光施設と連携した共通券の販売。地元郷土芸能の開催や愛好家による演奏会実施。 ○外部イベントの受入れ。
	令和6年度	○各種イベントの企画実施や地元の外部団体等のイベント受入を誘致。 ○インバウンド商談会への積極的な参加。
	令和7年度	

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3)法人情報等の積極的な開示等

○法人情報の公開

取り組むべき課題		○会社概要、決算報告など、県民がいつでも会社の運営状況を確認できるよう取組むこと
取組内容	共通	○県民に理解が得られるよう、会社概要、決算報告をHPへ継続掲載すること
	令和4年度	○HPへ会社概要、決算(H17分～)状況を継続掲載し、閲覧者に運営状況を開示した。 ○採用情報の掲載を継続した。
	令和5年度	○HPへ会社概要、決算(H17分～)状況を継続掲載し、閲覧者に運営状況を開示した。 ○採用情報の掲載を継続し人材確保に努めた。
	令和6年度	○HPへ会社概要、決算(H17分～)状況を継続掲載し、閲覧者に運営状況を開示した。 ○採用情報の掲載を継続し人材確保に努めた。
	令和7年度	

○認知度の向上

取り組むべき課題		○南レク公園資源と自主イベントを多様な媒体を活用し露出していくこと
取組内容	共通	○HP、TVCM、広報誌等を活用したPRと積極的な取材の受入れ
	令和4年度	○県政広報番組や地元自治体の広報誌を活用したイベント情報等の発信。 ○新聞広告やイベント情報誌及びホームページやSNS等を用いた情報発信。 アクセス数 HP:222,782 Instagram:13,976 Facebook:10,013 Twitter:51,859 ブログ:17,637 計316,267アクセス
	令和5年度	○県政広報番組や地元自治体の広報誌を活用したイベント情報等の発信。 ○新聞広告やイベント情報誌及びホームページやSNS等を用いた情報発信。 アクセス数 HP:243,037 Instagram:14,327 Facebook:7,082 X(旧Twitter):128,713 ブログ:7,011 計401,918アクセス
	令和6年度	○県政広報番組や地元自治体の広報誌を活用したイベント情報等の発信。 ○新聞広告やイベント情報誌及びホームページやSNS等を用いた情報発信。 アクセス数 HP:263,162 Instagram:177,063 Facebook:20,648 X(旧Twitter):4,879 LINE:8,374 TikTok:18 計474,144アクセス
	令和7年度	

10 令和7年度評価(令和6年度実績)

(1) 1次評価

法人による評価	<p>令和6年度の営業状況については、大きな地震が2度も発生したため施設運営に大きな影響を受け、また夏季の南レクプール営業期間にも台風10号が接近し、閉園を余儀なくされるなど、自然災害や悪天候に煩悶しながら運営管理を行うこととなった。</p> <p>利用者は289,647人(前年度310,358人)で、前年度から20,711人減少し、施設利用料金についても40,882千円(前年度:42,153千円)となり、前年度と比較し1,271千円の減収となった。前述以外の減員、減収の要因としては、土・日曜の天候不良による屋外施設の利用者減少や寒波の影響による南楽園の花イベントでの開花時期のずれ、鳥インフルエンザによることも動物園やバードアイランドの休園、松軒山スロープカーの運休などが影響した。なお、施設の管理運営に関しては、保守点検・植栽維持管理など事業計画に基づき、日常・月次点検、法定検査業務や、県担当課への修繕要望など南レク公園に必要な業務は適正に履行できたものと考えている。</p> <p>さらに、収支状況についても、原油価格や物価の高騰、賃金の改定や見直しなどが影響したが、経費削減に努め収支状況については、ほぼ均整のとれる結果にすることができた。</p> <p>令和7年度は、「日本庭園 南楽園」の開園40周年という大きな節目の年でもあるため、40周年の記念イベントをはじめ多様な催事を切れ目なく展開するなど、今後も積極的に地域の団体や関係機関と連携をとりながら利用促進を図って参りたい。</p>
法人所管課による評価	<p>令和6年度は、7・8月の猛暑や台風、さらに土日・祝日の天候不良の影響により、利用者数は前年に比べて全体的に減少したものの、紫電改展示館の売店や南楽園の観月祭・いもたきイベントでの売上が伸びたことなどにより、総売上高は前年度比107.1%の495,033千円を確保し、営業利益も前年度比163.6%の25,816千円となるなど、収益確保に向けた企業努力は評価できる。</p> <p>また、施設の管理運営に関しても、事業計画に沿った保守点検・植栽維持管理などを行っており、適切な管理運営ができていると考える。</p> <p>今後は、各種関係機関や行政、地域との連携を強化し、SNSなどを活用したPRに取り組むとともに、近年増加しているインバウンド誘客の促進など、開園40周年を迎える「日本庭園 南楽園」を中心に更なる満足度・集客の向上に務めていただきたい。</p> <p>さらに、注目度が高い紫電改展示館のリニューアル事業に合わせて、地域の貴重な資源であり、国内に現存する唯一の実機である紫電改を活用し、訴求力のあるSNS等を通じた情報発信に積極的に取り組むことで、誘客促進と愛南地域のにぎわい創出に努めていただきたい。</p> <p>なお、物価高騰が続く中ではあるが、経費削減などコスト意識をもった経営管理に取り組むほか、子会社の清算過程で取得し、土地の一部を売却したホテルサンパール跡地について、関係機関と連携して有効活用方策の検討を進めるなど、安定した経営基盤づくりに引き続き取り組んでいただきたい。</p>

(2) 2次評価